

活動報告及び令和2年度活動計画 ～生き物調査～

令和元年度活動内容

① 松江堀川の生き物調査、水質調査（令和元年7月3～5日）【継続】

松江堀川の生態系の把握を目的に実施。

種類	名称	数量 (個体)	生活型	備考
魚類	ヌマチチブ	1	回避	
	ミナミメダカ	8	淡水	絶滅危惧Ⅱ類(VU)【環境省RL】
	シシジコハゼ	7	汽水・海水	絶滅危惧Ⅱ類(VU) 【環境省RL、しまねRDB】
	スズキ	4	汽水・海水	
	フナ類	8	淡水	
	ボラ	5	汽水・海水	
	ウロハゼ	2	汽水・海水	
	タイリクバラタナゴ	31	淡水	重点対策外来種
	ブルーギル	99	淡水	緊急対策外来種(指定外来種)
	クサガメ	9	淡水	外来種説あり
爬虫類	ミシシippアカミミガメ	12	淡水	緊急対策外来種
	アサギカサガメ	1	淡水	
甲殻類	シロエビ	46	淡水	
	テナガエビ	62	汽水	
	シラタエビ	3	汽水・海水	
	モズガニ	1	回避	
昆虫類	アサガガリガニ	1	淡水	緊急対策外来種
	イトトンボのヤゴ	1	淡水	
貝類	コシアキソノボのヤゴ	2	淡水	
	ヤマシジミ	17	汽水	準絶滅危惧(NT)【環境省RL】
	カワサシショウガイ	2	汽水	
合計		321		

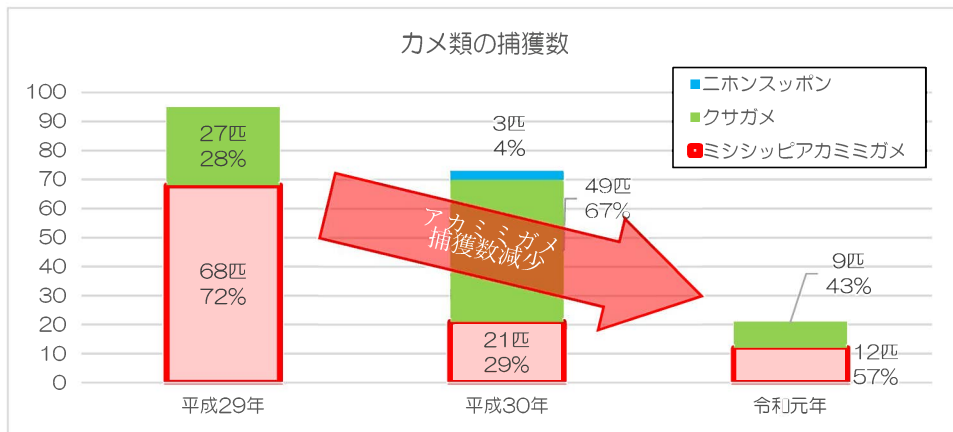
環境省RL: 環境省レッドリスト2018、しまねRDB: 改訂しまねレッドデータブック2014動物編

今回の調査では20種類の生き物を確認することができた。また、ホシザキグリーン財団の環境修復プロジェクトの調査内容を踏まえると、生き物調査を始めたH28からR01までの間で90種類の生き物を確認することができた。アカミミガメの捕獲数は12匹で昨年と比較し捕獲数は減少した。

調査箇所	調査日	COD (ppm)			透視度 (cm)			塩分濃度 (パーミル)		
		R01	H30	H29(参考)	R01	H30	H29(参考)	R01	H30	H29(参考)
①京橋川	7月3日	3	4	8	100	100	100	7	5	4
②四十間堀川(下流)	7月3日	7	8	8	100	35	100	1	3	2
③城山内堀川(大手門前側)	7月3日	4	6	4	100	35	100	3	2	3
④城山西堀川	7月3日	8以上	7	6	67	85	100	1	3	5
⑤城山内堀川(千鳥橋付近)	7月3日	5	4	4	100	60	44	2	3	4
⑥北田川(上流)	7月4日	8以上	3	6	100	63	50	3	3	4
⑦中川	7月4日	8以上	8	8以上	38	20	18	2	0	1
⑧比津川	7月4日	8以上	8	8以上	27	40	16	1	0	0
⑨田町川	7月3日	4	3	—	100	100	—	5	5	—
⑩四十間堀川(上流)	7月4日	8以上	8以上	—	20	33	—	2	1	—
⑪北田川(下流)	7月4日	7	8以上	—	79	50	—	1	2	—
平均値		6.4(6.4)	6.1(6.0)	6.5	75.5(79)	56.5(54.8)	66.0	2.5(2.5)	2.5(2.4)	2.9
参考値			宍道湖 5.7 中海 5.6		清流ルネサンス目標値 30			宍道湖 1～5 中海 10～20		

水質については各河川で差が出ているが、天候及び宍道湖からの導水状況により想定される範囲での変動で有り、これまでの調査結果と比較しても目立った変化はなかった。

カメ類の捕獲数について本格的に調査を始めた平成29年からの推移をみると捕獲数は年々少なくなっており、調査における一定の効果が出ていると思われる。

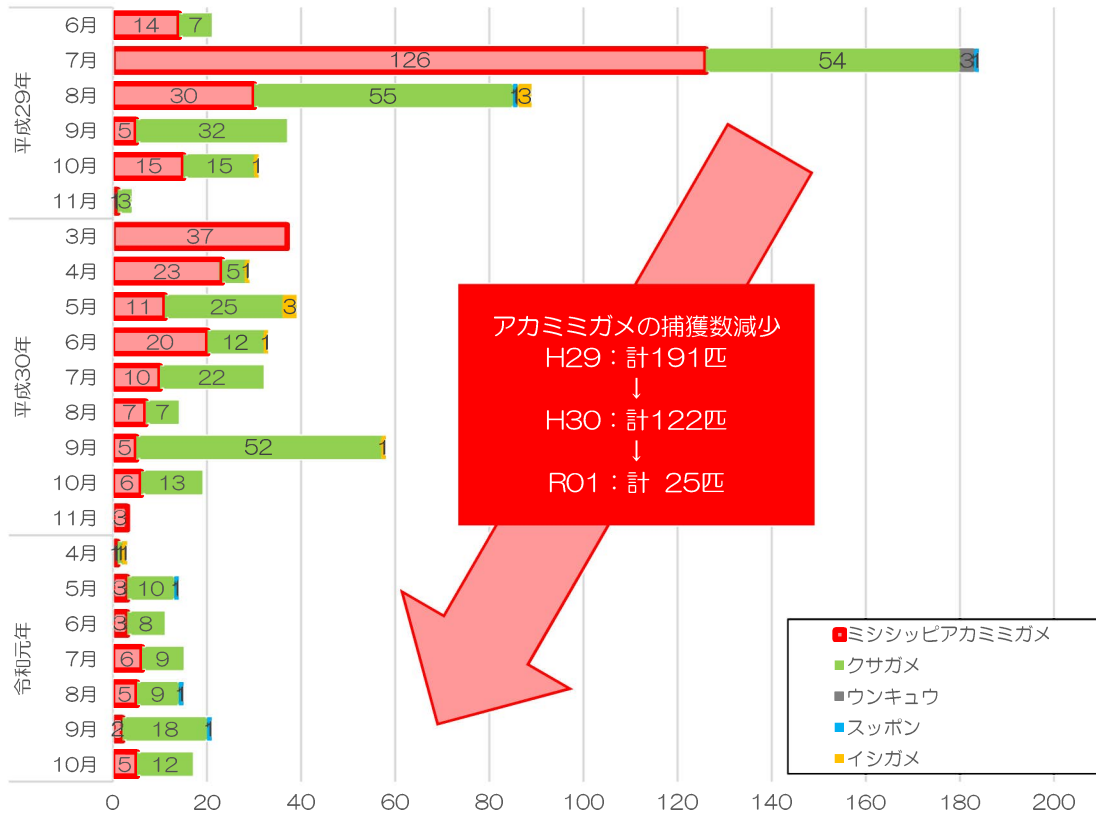


令和元年度活動内容

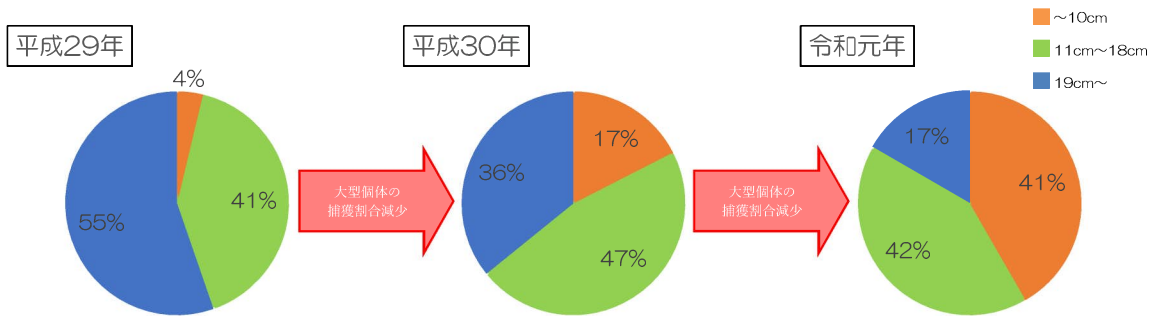
② 城山内堀川での捕獲調査（令和元年5月～11月）【継続】

閉鎖区間にて外来種を減らすことによる生態系への影響を確認のため実施

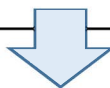
【カメ類捕獲数の推移(再補含む)】



【アカミミガメの背甲長の割合】

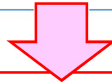


本格的に調査を始めた平成 29 年から比較すると今年は合計 25 匹と捕獲数が減少していることが分かる。また、アカミミガメの背甲長についても 19 センチ以上の大型個体が減少し、10cm 以下の小型個体が増えていることが分かる。調査方法に差はあるが、捕獲数の減少や捕獲個体の小型化から、今までの調査で一定の効果が得られたと考える。環境修復プロジェクトの成果としても、松江堀川全体でアカミミガメの捕獲数が減少しており、城山内堀川のみならず、松江堀川全体で一定の効果がでたと考える。



活動結果を踏まえて

- ・ 松江堀川に生息している生き物の概ねの把握
H28 から R1 までの調査で、生き物を 90 種把握することが出来た。
- ・ アカミミガメの捕獲数減少
H29 から R1 までの捕獲調査で捕獲数が H29 : 396 匹→H30 : 622 匹→R1 : 139 匹と今年度捕獲数が減少し、捕獲調査による一定の効果は出たと判断。城山内堀川調査においても捕獲数の減少が確認できた。また、松江堀川全体で甲羅干ししているアカミミガメの確認頻度も少なくなっており、捕獲調査による効果が出ていると考える。
- ・ 民間団体の参加
今までホシザキグリーン財団や協議会が主体となって捕獲調査を行っていたが、任意団体「千鳥のお堀を学ぶ会」が発足し、啓発イベントを主催し協働で活動できたことから防除の動きが民間にも広がりを見せてきた。



令和2年度活動計画

① 松江堀川の生き物調査、水質調査【縮小】

協議会主体での生き物調査は取りやめ、規模を縮小し任意団体「千鳥のお堀を学ぶ会」とのイベントの中で出来る範囲で調査を継続する。

◇調査目的

松江堀川の生態系を把握し、状況に応じて今後の対策について検討する

◇調査方法

具体的な方法は千鳥のお堀を学ぶ会と調整し決定。

調査にあたり協議会員にお手伝いを募ることとなる。

◇調査箇所

既存調査箇所を参考に千鳥のお堀を学ぶ会と調整の上、決定する。

② 城山内堀川での捕獲調査【完了】

活動結果を踏まえ、

- ・ 松江堀川に生息している生き物を概ね把握できたこと
- ・ 近年の捕獲調査によりアカミミガメに対する一定の効果が得られたこと
- ・ 防除活動が民間に広がりを見せてきたこと

以上により、当初活動の目的とされた松江堀川の生態系の把握が概ね達成され、官民協働での水環境保全への動きが出てきたことから、協議会主体での調査は完了とする。